

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 見附市立名木野小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 954-0034

新潟県見附市月見台1丁目10番75号

E-mail [nagino@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:nagino@mitsuke-ngt.ed.jp)

Website [www.mitsuke-ngt.ed.jp/^nagino/](http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/^nagino/)

幼児児童生徒数 男子 169 名 女子 174 名 合計 343 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「希望と飛躍」を学校理念として、ESDを環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉えている。これらの問題について共に考え学び合う教育の実践を通して、解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す教育を実践している。

具体的には、①防災に係わる知識や技能を習得する教育、②国際理解、文化多様性を理解する教育、③地域の歴史や文化・伝統に係わる教育、④健康や福祉に関する教育等を平成 29 年度の ESD 教育の柱として実践した。

### ① 防災に係わる教育活動

5 年生は 1 泊 2 日の宿泊体験を基軸にした防災スクールを実施した。長岡地域振興局・見附市企画調整課治水係による防災施設の現地学習、見附消防署による救出訓練・搬送体験、NPO 法人 RAC やくさぎコミュニティとの宿泊体験、炊き出し訓練を実施した。防災への意識を高めること、自分もいざというときに役に立ちたいと願う意欲が育っている。

② 国際理解、文化多様性に係わる教育活動

インドから長岡技術科学大学に留学しているバラさんをゲスト講師に招いて、平和の大切さや文化交流の意義などを3～5年生に話していただいた。

6年生は、3・4年生の時に演じた劇「草薙龍（くさなぎりゅう）」を英語化し、英語劇として平成30年2月9日に発表した。

③ 地域の伝統文化、文化遺産に係わる教育活動

3・4年生は地域に流れる刈谷田川が氾濫した姿を模した草薙龍（くさなぎりゅう）との戦いを劇化し、7月の新潟県公民館大会や10月の文化祭で公演した。

1・2年生は生活科の学区探検の中で、河川敷の桜並木の美しさなど川の景観を楽しんだ。また、国語の昔話調べで、ヤマタノオロチ伝説が劇「草薙龍」と同じ話であることを学習した。

④ 健康・福祉に係わる教育活動

全学年で福祉教育・ボランティア教育を推進し、市内福祉施設の訪問や交流活動を計画的に実施している。

名木野デイサービスセンター訪問は10年以上続いており、平成29年度は土曜日にも希望する児童が交流訪問を自主的に行っている。そのことが評価され、2月にライオンズクラブ表彰を受けた。

隣接する見附特別支援学校とは合同の運動会を開催し、同じ種目を行い交流を深めた。月1回のペースで学年ごとの児童交流を行うなど、計画的な福祉訪問・交流活動が展開されている。



① 防災スクール搬送体験



② 外国人ゲスト講師の講話



③ 県公民館大会「草薙龍」



④ デイサービス訪問

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユネスコスクール公式ウェブサイト 文部科学省HP 見附の教育①みつけのコミュニティ・スクール (見附市教育委員会) 「見附は今、個がかがやくとき」(見附市教育委員会)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校は、「希望と飛躍」を学校理念として、ESDを環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉えている。これらの問題について共に考え学び合う教育の実践を通して、解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す教育を実践している。

具体的には、防災スクール、草薙龍、職場体験を柱に、①防災に係わる知識や技能を習得する活動、②国際理解、文化多様性を理解する教育、③地域の歴史や文化・伝統に係わる教育、④健康や福祉に関する教育を中心に平成29年度のESD教育を実践した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

見附市教育委員会・見附市消防署ならびに長岡地域振興局等の行政機関からの指導・支援を受けながら、地域コミュニティや地域住民と連携し、計画段階から実施・評価まで一貫した組織的・継続的活動となるように工夫して取り組んできた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童アンケート・保護者アンケート等による意識の変容を測る評価に加え、学校運営協議会や学校応援団の方々との意見交流、活動を支えてくれた協力団体や関係者との熟議により、活動の質の向上を図るための成果と課題（○成果・▲課題）が明らかになった。

○ 自分が大人になったとき災害復興ボランティアとして働きたいと、活動の振り返りを通して自分の考えを明確に書く児童が増えている。

▲ 内容が増えて、協力団体との日程や時間調整が難しくなっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

防災学習について地域振興局の報道発表により、新聞社・地域FM局等から取材を受けた(建設工業新聞・新潟日報・FMながおか・長岡地域振興局のHP)。地域に根ざした教育プログラム開発と実践が評価され、見附市防災教育研究発表会(8月:会場=文化ホールアルカディア)での発表につながった。

地域に流れる刈谷田川が氾濫した姿を模した草薙龍(くさなぎりゅう)との戦いを劇化し、新潟県公民館大会にて児童劇で発表した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

8月の5年防災スクールでは長岡地域振興局がかかわる場面で、新潟大学工学部学生が研修の一環として、防災アーカイブや遊水池(田んぼダム)に同行・見学した。また、北谷北部くさなぎコミュニティ会長から12年前の水害発生時の様子を話していただいた。同コミュニティのメンバーから支援を受けながら、児童は炊き出し訓練における豚汁作りを行った。

福祉教育や交流教育の一環として、名木野デイサービスセンター・わかくさ中央保育園・見附特別支援学校との定期交流を継続して続けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

見附市内の防災スクール実施校(今町小学校)と活動内容の情報交換を行った。ライフジャケット等の備品・用具を交代で使用するために、両校で日程調整も実施している。

見附市防災教育研究発表会に市内教職員が参加して、市教育委員会の発表や発表校3校の発表を聴き、防災意識や防災教育の必要性について改めて向上させることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

防災スクールを経験した児童作文の中に、「大きくなってこんな時が来たら、わたしも豚汁づくりをして困っている人を助けたい。」など、具体的な活動内容を盛り込んだ表現がみられるようになった。このように「面白かった。いい経験になった。」などの単なる感想文でなく、将来において地域社会に貢献したいと考える意欲・態度が明確に払わすことができるようになったことが大きな効果である。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

防災学習…5年生は1泊2日の宿泊体験を基軸にした防災スクールを実施する。

国際理解、文化多様性・・・6年生は3・4年生の時に演じた劇「草薙龍（くさなぎりゅう）」を英語化し、英語劇として発表する。

地域の伝統文化、文化遺産…3・4年生は地域に流れる刈谷田川が氾濫した姿を模した草薙龍（くさなぎりゅう）との戦いを劇化し、文化祭等で公演する。1・2年生は生活科の学区探検の中で、河川敷の桜並木の美しさなど川の景観を楽しむ。また、国語の昔話調べで、ヤマタノオロチ伝説が劇「草薙龍」と同じ話であることを学習する。

健康・福祉…全学年で福祉教育・ボランティア教育を推進し、市内福祉施設の訪問や交流活動を計画的に実施していく。

●**担当者名**

職 名                     教 頭                      
氏 名                     宮野 英孝                      
電 話                     0 2 5 8 - 6 2 - 0 0 9 1                      
E-mail                     nagino@mitsuke-ngt.ed.jp                    

※学校の複数の関係者が閲覧できるメールアドレス（共用メールアドレス等）をご記入ください。

●**ユネスコスクールの認定継続・解除について**

来年度のユネスコスクールの認定継続の希望の有無について、今年度から回答いただくこととしました。

来年度もユネスコスクールとして継続して活動を希望する場合は「有」に囲み印を付けてください。

学校の状況等を踏まえ、今後ユネスコスクールの活動の継続が困難である（又は妥当でない）と学校が判断した場合、所管の教育委員会又は知事部局に事前に連絡の上、「無（認定解除を希望）」に囲み印を付けてください。また、認定解除を希望する理由についても記入ください。

なお、各学校は、ユネスコへ提出した申請書において、少なくとも2年間はユネスコスクールの活動を行う旨誓約しています。活動期間2年未満で認定解除を希望する場合は、特段の理由が必要となります。

1. ユネスコスクールの認定継続の希望

**有** ・  **無（認定解除を希望）**

2. （上記1で「無」を選択した場合のみ）認定解除を希望する理由

(※) 認定解除の流れ

- ① 上記認定解除希望をユネスコスクールナショナルコーディネーター（文部科学省国際統括官付。以下「NC」とする。）が受理後、NCからユネスコへ伝達。
- ② ユネスコが認定解除希望を受理後、NCを通じて当該学校へ認定解除の連絡。
- ③ 当該学校は、ユネスコ作成のユネスコスクール承認証をナショナルコーディネーターへ返却するとともに、ユネスコスクールのロゴをはじめユネスコスクールであることを示す物品等の公開・使用等を速やかに中止。

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書 留意事項

## 1. 全体の留意事項

- ✓ 年次報告書の様式が昨年度以前と異なりますので、御了承ください。(活動内容のよりの確な把握等のため変更しました。)
- ✓ 必ず本様式を使用ください。活動内容が分かる補足資料の提出は可能です。
- ✓ 当報告書はユネスコスクールホームページに掲載予定です。

## 2. 様式についての留意事項

### (1) 活動の概要

- ✓ 単なる活動の羅列に留まらず、どのような理念に基づき、ユネスコスクール及びESDをどのように捉え、何を目標としたか(児童・生徒の育みたい力など)についても記入ください。
- ✓ SDGsやGAPなど国際的な枠組みを意識して活動を行った場合は具体的に記入ください。また、ユネスコが提案する国際協働プロジェクト、コンテスト、キャンペーンへの参加、もしくはそれらと関連した国内(地域)での活動を実施した場合、その実績を記入ください。また、国連の記念日(特にユネスコの定める国際デー)に関連した取組を行った場合はその実績を記入ください。

(参考)国際デー(国連広報センターHP)

[http://www.unic.or.jp/activities/international\\_observances/days/](http://www.unic.or.jp/activities/international_observances/days/)

### (2) 活動内容(丸数字は様式の番号と対応)

- ② 当該活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。
  - ✓ 例えば、学習指導要領との関連付け、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成 / 教科横断的な指導計画の立案 / アクティブラーニングの積極的な導入など、該当する内容を記入ください。
- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。
  - ✓ 評価対象は、活動を通じた教員や児童生徒の変容、学校全体のESD推進体制をはじめ、活動全般が対象となります。
- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成
  - ✓ 大学、教育委員会、ESDコンソーシアム、ESD活動支援センター、各種ネットワークなどの活用状況又は活用に向けた取組について記入ください。
- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成
  - ✓ 他のユネスコスクールとの交流実績を記入ください。
  - ✓ 交流実績のない学校は、将来的な交流のためのネットワーク構築に向けて取り組んだ内容を記入ください。

### (3) その他

- ✓ 校種の性質上、記入が困難な項目はその旨記入の上割愛いただいても結構です。(幼稚園・保育園等を想定)
- ✓ 記入欄は適宜広げて記入いただいても構いません。